

薬学教育モデル・コア・カリキュラム (令和4年度改訂版) について



令和7年3月31日

文部科学省高等教育局医学教育課



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会とりまとめ

令和3年6月30日（抜粋）

1. はじめに

- ・これまで、医療の高度化・複雑化や少子高齢社会の進展等の状況の変化により、「患者のための薬局ビジョン」における、かかりつけ薬剤師・薬局の推進、医療機関における**チーム医療の進展、地域包括ケアシステム**の一員としての薬剤師の対応など、薬剤師に求められる役割や業務内容が変化している。

2. 今後の薬剤師に求めるべき役割及びそれを踏まえた需給推計

（1）今後の薬剤師が目指す姿

①薬局

- ・地域包括ケアシステムの中で役割を果たすためには、各地域の実情に応じ、他の職種や医療機関等と連携し、患者に対して一元的・継続的な薬物療法を提供することが重要

②医療機関

- ・チーム医療の推進により、多職種と連携しながら病棟の薬剤業務の充実が求められている。

3. まとめ（提言）

②薬学教育（カリキュラム）

- ・**多職種連携**、患者との対話を通じた薬学的知見に基づく指導を適切に行うためには、コミュニケーション能力を身につけることも必要。さらに充実させるべき。
- ・**他職種の学部・大学との連携**を含め、**臨床現場の実態が学習できるようなカリキュラム**とすべきである。

薬学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）概要

- 「薬剤師として求められる基本的な資質・能力」を生涯にわたって研鑽し獲得するため、6年制薬学教育で卒業時までには学ぶ基礎薬学、医療薬学、衛生薬学、臨床薬学等の知識や技能を修め、薬剤師として社会で活躍できる能力の修得を目的に作成されている
- 薬剤師は、医薬品の製造、調剤、供給における任務を遂行し、適切に品質管理された医薬品を過不足なく効率的に国民に提供するとともに、広く薬事衛生、患者・生活者の健康増進等に寄与する社会的責務を担うことが求められる
- 各大学が策定する「カリキュラム」のうち、全大学で共通して取り組むべき「コア」の部分であり、学修時間数の7割程度を目安としている（残り3割程度は、3つのポリシー等に基づき各大学が自主的・自律的に編成）
- 令和4年度は、**医療人として共通の価値観を共有**すべく、医学・歯学・薬学で同時に改訂

キャッチフレーズ

「未来の社会や地域を見据え、多様な場や人をつなぎ活躍できる**医療人の養成**」



人口構造の変化、多疾患併存、多死社会、健康格差、増大する医療費、新興・再興感染症や災害リスクなど様々な問題に直面し、これらの社会構造の変化は、年を経るにつれ更なる激化が見込まれている。このように社会に多大な影響を与える出来事を的確に見据え、多様な時代の変化や予測困難な出来事に柔軟に対応し、生涯にわたって活躍し、社会のニーズに応える医療人の養成が必須である。

そのためには、医療者としての根幹となる資質・能力を培い、多職種で複合的な協力を行い、多様かつ発展する社会の変化の中で活躍することが求められる。また、患者や家族の価値観に配慮する観点や利他的な態度が重要である。さらには、ビッグデータや人工知能（AI）を含めた医療分野で扱う情報は質も量も拡大・拡張しており、これらを適切に活用した社会への貢献も求められる。

薬学教育モデル・コア・カリキュラム 改訂の基本方針

- 1.大きく変貌する社会で活躍できる薬剤師を想定した教育内容
- 2.**生涯にわたって目標とする「薬剤師として求められる基本的な資質・能力」**を提示した新たなモデル・コア・カリキュラムの展開
- 3.各大学の責任あるカリキュラム運用のための自由度の向上
- 4.**臨床薬学という教育体制**の構築
- 5.課題の発見と解決を科学的に探究する人材育成の視点
- 6.医学・歯学教育のモデル・コア・カリキュラムとの一部共通化



薬学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）概要

A

薬剤師として求められる基本的な資質・能力

- 「医師/歯科医師/薬剤師に求められる基本的な資質・能力」を原則共通化
- 薬剤師として求められる10の基本的な資質・能力とその説明文を記載

10. 社会における医療の役割の理解

* 医学/歯学は「患者ケアのための診療技能」



B ~ G

学修目標ほか

- 大項目の学修目標（卒業時の標準的なアウトカム）
- 基本的な資質・能力とのつながり
- 評価の指針（学修目標への到達を評価する視点）

小項目

ねらい

- 他の項目との関連性を明記 ●関連の強い項目を列挙

学修目標

- 個別の知識や技能を概念的に把握する目標
- 知識や技能を活用して判断し行動する目標

学修事項

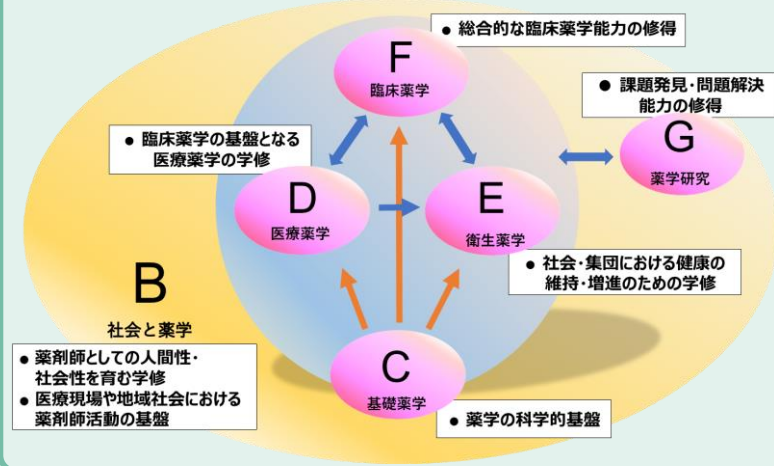
- 学修目標を達成するために必要な具体的な知識や技能・行為等
- 大学がカリキュラム作成に参考とする事項

大項目A、B～G、DPの関係

A 薬剤師として求められる基本的な資質・能力 (生涯にわたって目標にする)

各大学のディプロマ・ポリシー（DP） （卒業時に評価可能でAにつながるものとして策定）

大項目B～G



- ① 薬学教育モデル・コア・カリキュラムの考え方
- ② 薬学教育モデル・コア・カリキュラム改訂の概要
- ③ A 薬剤師として求められる基本的な資質・能力
- ④ B 社会と薬学
- ⑤ C 基礎薬学
- ⑥ D 医療薬学
- ⑦ E 衛生薬学
- ⑧ F 臨床薬学
- ⑨ G 薬学研究
- ⑩ 薬学教育モデル・コア・カリキュラム今回の改訂までの経過
- ⑪ 検討組織の設置・委員名簿
- ⑫ 医師・歯科医師・薬剤師が関わる法令一覧
- ⑬ 略語集

A 薬剤師として求められる基本的な資質・能力

薬剤師は、豊かな人間性と医療人としての高い倫理観を備え、薬の専門家として医療安全を認識し、責任をもって患者、生活者の命と健康な生活を守り、医療と薬学の発展に寄与して社会に貢献できるよう、以下の資質・能力について、**生涯にわたって研鑽**していくことが求められる。

1. プロフェッショナリズム	豊かな人間性と生命の尊厳に関する深い認識をもち、薬剤師としての人の健康の維持・増進に貢献する使命感と責任感、患者・生活者の権利を尊重して利益を守る倫理観を持ち、医薬品等による健康被害(薬害、医療事故、重篤な副作用等)を発生させることがないよう最善の努力を重ね、利他的な態度で生活と命を最優先する医療・福祉・公衆衛生を実現する。
2. 総合的に患者・生活者をみる姿勢	患者・生活者の身体的、心理的、社会的背景などを把握し、全人的、総合的に捉えて、質の高い医療・福祉・公衆衛生を実現する。
3. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢	医療・福祉・公衆衛生を担う薬剤師として、自己及び他者と共に研鑽し教えあいながら、自ら到達すべき目標を定め、生涯にわたって学び続ける。
4. 科学的探究	薬学的視点から、医療・福祉・公衆衛生における課題を的確に見出し、その解決に向けた科学的思考を身に付けながら、学術・研究活動を適切に計画・実践し薬学の発展に貢献する。
5. 専門知識に基づいた問題解決能力	医薬品や他の化学物質の生命や環境への関わりを専門的な観点で把握し、適切な科学的判断ができるよう、薬学的知識と技能を修得し、これらを多様かつ高度な医療・福祉・公衆衛生に向けて活用する。
6. 情報・科学技術を活かす能力	社会における高度先端技術に関心を持ち、薬剤師としての専門性を活かし、情報・科学技術に関する倫理・法律・制度・規範を遵守して疫学、人工知能やビッグデータ等に係る技術を積極的に利活用する。
7. 薬物治療の実践的能力	薬物治療を主体的に計画・実施・評価し、的確な医薬品の供給、状況に応じた調剤、服薬指導、患者中心の処方提案等の薬学的管理を実践する。
8. コミュニケーション能力	患者・生活者、医療者と共感的で良好なコミュニケーションをとり、的確で円滑な情報の共有、交換を通してその意思決定を支援する。
9. 多職種連携能力	多職種連携を構成する全ての人々の役割を理解し、お互いに対等な関係性を築きながら、患者・生活者中心の質の高い医療・福祉・公衆衛生を実践する。
10. 社会における医療の役割の理解	地域社会から国際社会にわたる広い視野に立ち、未病・予防、治療、予後管理・看取りまで質の高い医療・福祉・公衆衛生を担う。

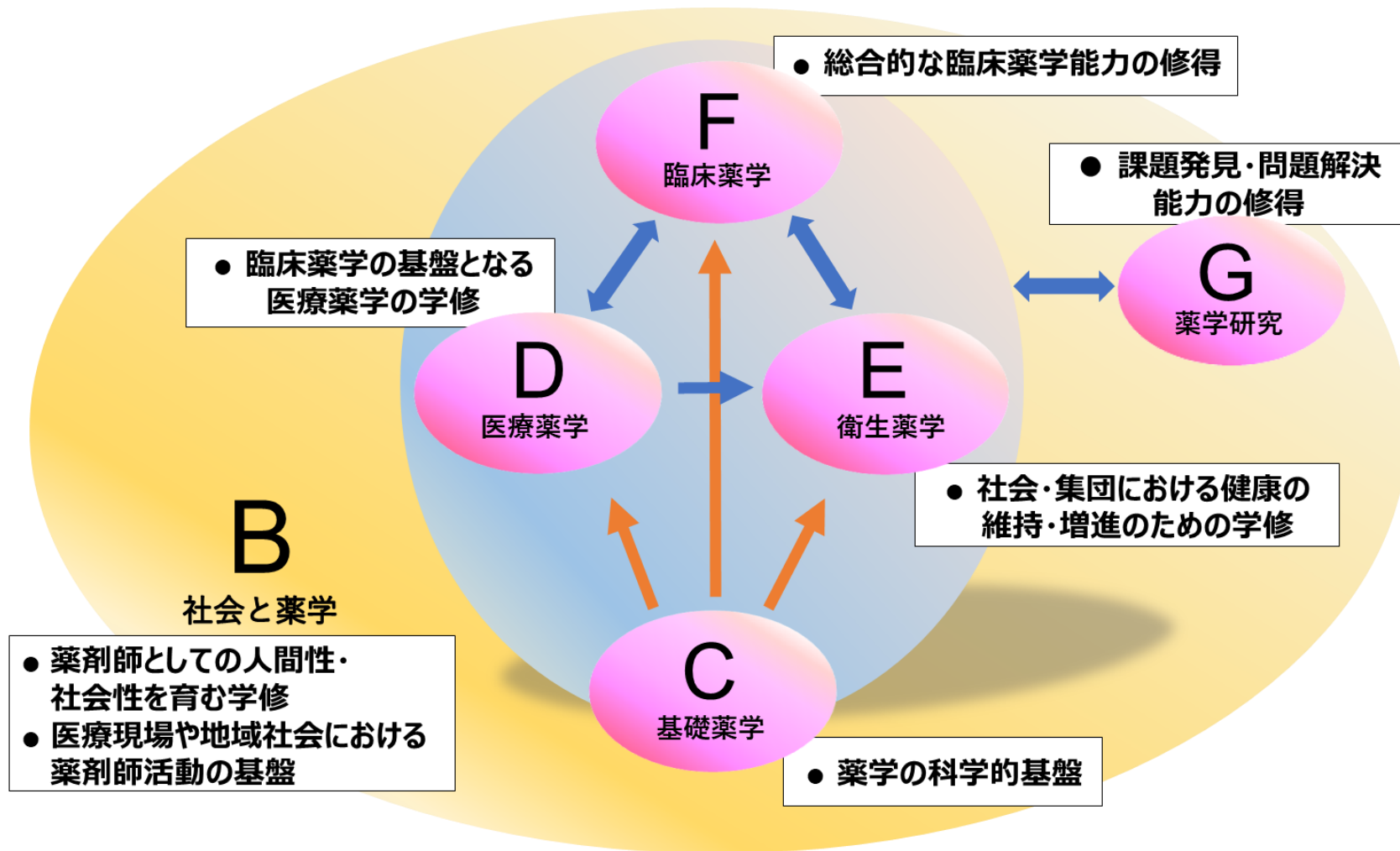


図 大項目「B 社会と薬学」～「G 薬学研究」の相互の関連(イメージ図)

大項目の比較

平成25年度改訂版

令和4年度改訂版

薬学教育モデル・コアカリキュラム

A 基本事項

B 薬学と社会

C 薬学基礎

D 衛生薬学

E 医療薬学

F 薬学臨床

G 薬学研究

薬学教育モデル・コア・カリキュラム

A 薬剤師として求められる基本的な資質・能力

B. 社会と薬学

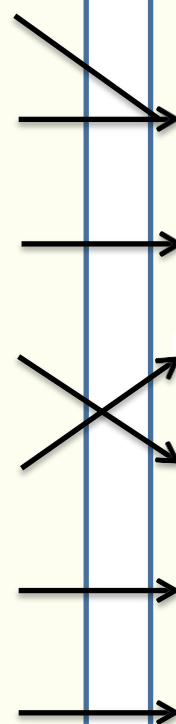
C. 基礎薬学

D. 医療薬学

E. 衛生薬学

F. 臨床薬学

G. 薬学研究



薬学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）の概要 平成25年度改訂版との比較

薬学教育モデル・コアカリキュラム （平成25年度改訂版）

- 薬剤師として求められる基本的な10の資質
・卒業時に必要とされる資質を記載

（一部新設）

- 病院・薬局における実務実習で修得する目標と大学で実務実習前後に修得する目標を区別
- 近年の薬剤師の役割と業務の変化に十分に対応できていない

（例）

- ・感染症とその治療薬、微生物学が中心
- ・解剖・生理学に係る記載が少ない
- ・情報・科学技術の活用に係る記載が少ない
- ・課題の発見と解決を科学的に探求する人材育成が十分でない

- 学修成果基盤型教育に係る記載が不十分
・「基本的な資質」を身に付けるための一般目標（GIO）を設定し、GIOを達成するための詳細な到達目標SBOs(1073項目)を記載
・SBOsが細部にわたって記載されており、大学独自の内容をカリキュラムに取り入れる余裕がない

薬学教育モデル・コア・カリキュラム （令和4年度改訂版）

- 薬剤師として求められる基本的な10の資質・能力の改訂
・生涯にわたって研鑽していくことが求められる資質・能力
⇒2つ資質・能力を追加し、従来の「薬剤師としての心構え」と「患者・生活者本位の視点」を「**プロフェッショナリズム**」として発展
＜新たに追加した資質・能力＞
 - ・総合的に患者・生活者をみる姿勢
 - ・情報・科学技術を活かす能力
- 大きく変貌する社会で活躍できる薬剤師を想定した教育
・**超高齢社会、情報科学技術の進展等**に対応するとともに、**大学と医療現場がより一層連携して教育**を行うため、以下の観点から学修目標を整理
 - ・**薬物治療を個別最適化する能力の向上**（社会的背景等を把握し、全人的に捉える）
 - ・多職種連携能力の向上
 - ・医療マネジメント（医療安全等）への貢献
 - ・地域医療・疾病予防への貢献
 - ・**感染症の予防・まん延防止に係る内容の充実**
 - ・保健統計・疫学的解析の充実
 - ・解剖・生理学に係る記述の明確化
 - ・**情報・科学技術を活用する能力**（情報等に関する倫理とルール、医療等への活用）
 - ・研究活動の実践による課題発見・解決能力の向上
- 学修成果基盤型教育の更なる展開
 - ・具体的事実を覚えるだけでなく、**新たに直面する課題や問題の解決に生かす学力を身に付ける観点から学修目標(約350項目)を整理**
 - ・「学修目標」に到達するために必要と考えられる知識や行為等について参考となる事項を「学修事項」として列記

薬学教育モデル・コア・カリキュラムの構成①

- 大項目
 - ・ 〈大項目の学修目標〉
 - ・ 〈薬剤師として求められる基本的資質・能力とのつながり〉
 - ・ 〈評価の指針〉
- 中項目
- 小項目
 - ・ 〈ねらい〉
 - ・ 〈学修目標〉
 - ・ 〈学修事項〉
 - ・ 〈評価の指針 重点〉

大項目

〈大項目の学修目標〉

- ・ 大項目B～Gの各大項目により到達を目指す目標。モデル・コア・カリキュラム履修を想定したときの修了(卒業)時の標準的な学修成果(アウトカム)。大項目「A 薬剤師として求められる基本的な資質・能力」を獲得するために、当該大項目の学修内容に基づいて設定される。

〈薬剤師として求められる基本的な資質・能力とのつながり〉

- ・ 各大項目B～Gの学修が、生涯の目標である「A 薬剤師として求められる基本的な資質・能力」とどのようにつながっていくかを記載している。

〈評価の指針〉

- ・ 学修目標への到達を評価するための視点として示されている。

薬学教育モデル・コア・カリキュラムの構成②

中項目

●小項目

○〈ねらい〉

- ・ 他の項目との関連性を明記。「他領域・項目とのつながり」を記載。

○〈学修目標〉

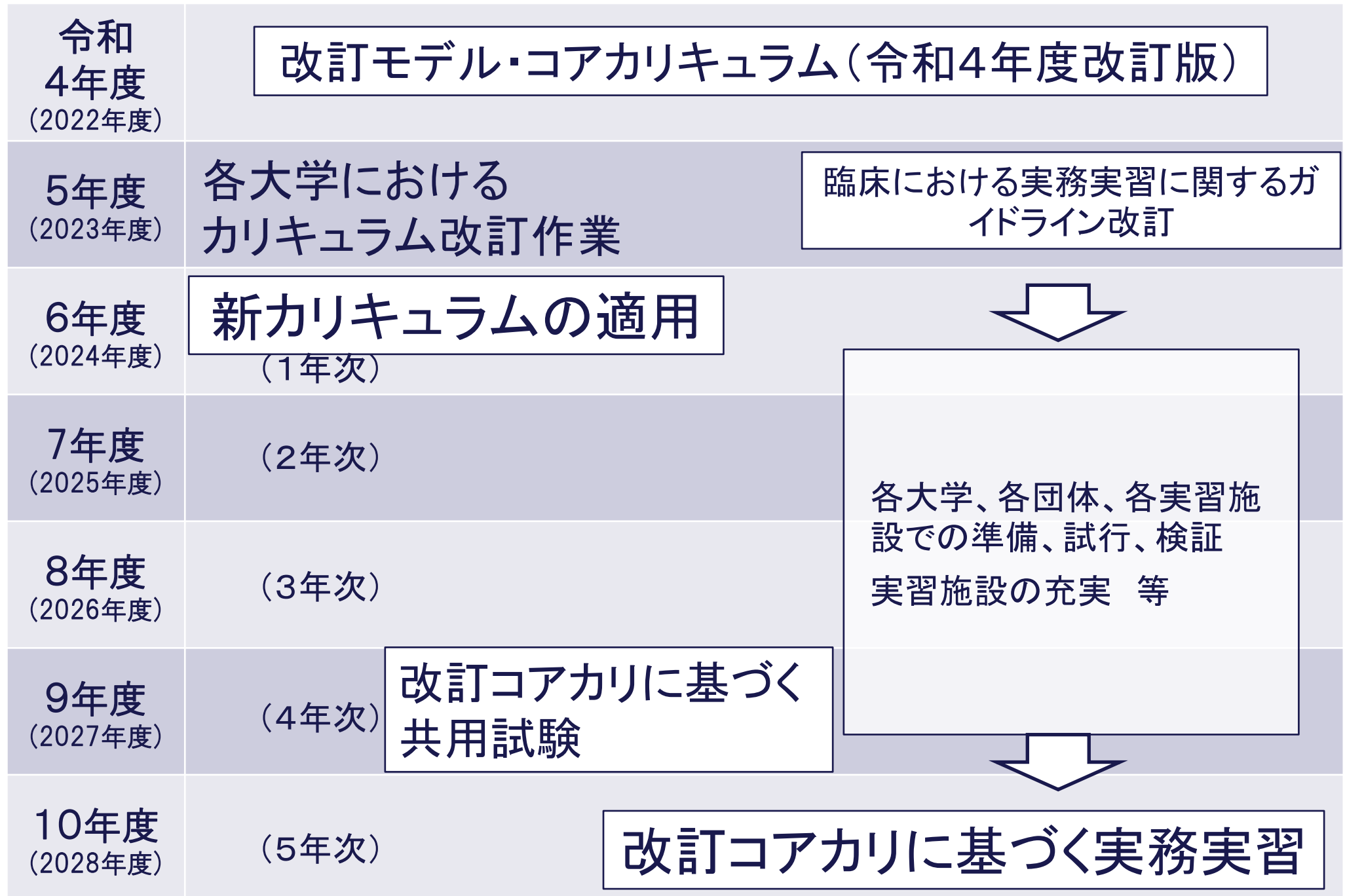
- ・ モデルコアカリの本体
- ・ 個別の知識や技能を概念的※に把握し体系化して理解すること、知識や技能を活用して判断し行動することを示したものである。
- ・ 〈学修事項〉を参考として〈学修目標〉を読み解き、各大学が独自のカリキュラムに具体化する。

※ 概念とは、「理解している物事に共通している特徴」という意味である。具体的事実を網羅的に数多く覚えるのではなく、いくつかの典型的な例をもとに考えることで共通点を見出し、新たに直面した事象に応用する力、問題点を解決する力を身に付けることを意味する。

○〈学修事項〉

- ・ 学修目標を達成するために必要な具体的な内容を、各大学のカリキュラム作成の際の参考として記載。
- ・ これらだけを修得すれば良いということではない。
- ・ 1つ1つ網羅的に達成していくSBOsと同様に捉えるべきではない。
- ・ 各大学が作成するカリキュラムでは、〈学修事項〉の取り上げ方が違ってくる(濃淡があり得る)。
- ・ 各学修事項に対応する学修目標の番号を、末尾の【】内に記載している。

今後のスケジュール



ご清聴ありがとうございました



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN